

安曇野さとやま時間

間耕地林務課 TEL 71・2432



恵みを楽しみ、守り、支える

さとやま時間を楽しんで過ごす。

里山を知ること

安曇野の風景と暮らしの源でもある

自然の大切さや魅力に気づく――。

人と里山をつなぐ取り組み「さとぶろ。」で

さとやま時間づくりを行っている

皆さんの姿と取り組みを特集します。



INTERVIEW

橋本拓さん（44・穂高有明）



身近な森林に関わる人の背中を押す

6年前にさとぶろ。学校のスタッフとして関わったのが「さとぶろ。」との出会いでした。元々、森を見るのが好きで、木々に手を入れる仕事に関りたいと思っていたことから、普段は大町市の山仕事創造舎で林業に携わっています。会社では大きな森林の手入れをすることが多く、身近な小さな森に手を入れることは難しいんです。なので、この活動を通じて個人レベルで近くの森林に携わる人が増えたらいいなと思っています。

森林というと「木」を思い浮かべるかもしれませんが関わり方はそれだけではありません。人と人との交流の数だけ森林への入口が増えます。その1つでもある「さとぶろ。学校」も10期目を迎え、森林に関わる人が確実に増えていて手ごたえを感じています。さらにそこから仲間同士で新たな取り組みを始める人たちもあり、うれしく思います。今後もそんな皆さんの背中を押せるよう活動を続けていきます。

変わる里山に 息を吹き込む

安 曇野市の約60％は森林に覆われ、私たちの暮らしのすぐそばには「里山」が広がっています。かつてこの里山は、薪や炭、落ち葉などを生活に生かす身近で大切な資源の宝庫でした。多くは民有林として木材利用も盛んに行われ、地域と共に生きてきた場所です。

近年では、薪ストーブやペレットストーブの普及、地元産材への関心の高まりから、再び注目を集めています。しかし、人口減少や高齢化により手入れが難しくなり、放置される森が増えています。間伐されない森は生態系のバランスを崩し、野生動物による被害や災害リスクの増加、生物多様性の低下など、深刻な問題を招いています。かつて人と森が寄り添って暮らしていたように、もう一度、私たちの手で里山に息を吹き込むことが求められています。

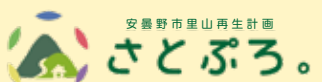
楽しみ関わる さとぶろ。

いつのまにか遠くなってしまう里山との距離を縮め未来へつなぐためには、多くの皆さんが里山に関心を持つことが第一歩です。市では、平成27年度に里山再生計画を策定し、「さとぶろ。」の活動をスタートさせました。現在「里山まきの環プロジェクト」「里山木材活用プロジェクト」「里山学びの環プロジェクト」

「里山の魅力発見プロジェクト」の4つを中心に、市民・事業者・行政などが協働で活動しています。暮らしと里山の関係を楽しみながら学ぶことで、単なる保全にとどまらず、持続可能な関わり方を作り続けています。

未来を耕す 新たな挑戦――

活動開始から10年が経過した本年、里山に興味を持ち活動を行う「さとぶろ。サポーター」は400人を超え、4つのプロジェクトの枠を越えた活動も広がりを見せています。また昨年、安曇野の経済・社会・環境をつなぐ総合的な取り組みとして、内閣府から、さとぶろ。を中心とした「里山からつながる安曇野共生プロジェクト」が自治体SDGのモデル事業として選定されました。「さとぶろ。」は今、単なる里山再生や鳥獣対策にとどまらず、地域全体が連携しながら「人と自然が共に生きる里山」の再構築を目指し、新たなステージを迎えています。



「さとぶろ。」の活動の詳細やイベント情報をHP・SNSで発信しています。興味のある活動にぜひご参加ください。



さとぶろ。HP